

令和2年度 地域の元気応援事業 ふいかえり報告書



松阪市 企画振興部 地域づくり連携課

令和3年7月

はじめに

1. 地域の元気応援事業について

地域の元気応援事業は、住民協議会やNPO等の市民活動団体による地域の特性を生かした魅力ある活動を応援する事業です。下記2部門で募集・審査を行い、優れた事業提案に対して活動資金を交付します。

2. 部門紹介（令和2年度地域の元気応援事業 募集要項の内容）

（A）地域力アップ部門

対象団体	住民協議会
部門の概要	単独の住民協議会または複数の住民協議会が共同で行う事業を対象に、地域計画等に基づき、地域の個性を生かし、地域が一体となって地域の課題解決に取り組んでもらうことを目的とした部門。 これまで続けてきた事業をさらにステップアップさせる場合も対象。
支援額	上限 20 万円（活動交付金に加算）※地域づくりスポンサー賞で加算あり

※地域づくりスポンサー賞とは？

企業が地域社会の発展に賛助いただくことを趣旨として、住民協議会が行う活動を応援する賞です。（A）部門の事業提案の内、付加価値のある優れた事業提案に対して賞が授与されます。賞を受けると、20 万円を上限に交付金へ加算され、更なる事業の発展に活用することができます。

（B）市民活動サポート部門

対象団体	松阪市内の地域づくりに寄与する、NPO等の市民活動団体（※）
部門の概要	NPO等の市民活動団体をもつ多様なアイデアやスキルを生かした事業を実施することで、地域の活性化に役立ててもらうことを目的とした部門。
募集コース 及び支援額	①地域活性コース：NPO等の市民活動団体が行う事業のコース 支援額：上限10万円（事業費の10分の9まで） ②地域連携コース：NPO等の市民活動団体が、住民協議会と連携したり住民協議会を支援したりして行う事業のコース ☆応募の際、関係する住民協議会の推薦が必要 支援額：上限15万円（事業費の10分の9まで）

※応募対象となる団体は、公共の利益や社会貢献を目的として主体的・自主的な取り組みを行う、5人以上で活動する団体です。法人格の有無は問いません。ただし、未成年者だけで構成する団体は除外します。

令和2年度採択事業紹介

(地域力アップ部門)

ページ	事業の名称／協議会・団体名	事業概要	スポンサー賞
3	風水害、土砂災害時における早期避難体制への取り組み 松尾まちづくり協議会	地域でのボトムアップ型災害時要支援者名簿の作成と早期避難体制の構築	
5	「つながり、街道文化の伝承・地域の成り立ちを考える」 大石地区まちづくり協議会	伊勢、和歌山街道、地域の今につながる街道文化を伝承し、地域の成り立ちを考える。	マックスバリュ 東海株式会社
7	オール西黒部 体力アップで避難所ゴー!! 西黒部まちづくり協議会	日々元気で暮らせる体を作り上げ、災害時でも自分で避難できる地域を目指します。	カイバナ眼科 クリニック
9	これからの10年 松ヶ崎まち協活動の柱は⇒継続・発展 松ヶ崎まちづくり協議会	これからの10年、松ヶ崎まち協の柱は⇒継続・発展 確かな“形・姿”づくりを推進します。	三重ダイハツ 販売株式会社
中止	はたどの祭り・機殿菰大福の日と歴史ウォーキング 機殿まちづくり協議会	農と歴史の郷、機殿！菰、米が題材！全てに魅力満載！来て、見て、食べて、楽しんで！	宇野重工 株式会社
11	神戸ふれあい農園のステップアップ 神戸まちづくり協議会	神戸ふれあい農園の土壌改良と省力化を図り、更にふれあえる農園へステップアップ。	
13	お父さんの出番やに♪ 徳和住民協議会	ママ友はいるけどパパ友っているのかな？親子で参加してパパ同士の交流しませんか？	松阪新電力 株式会社
中止	豊地エコミュージアム&プレーパーク事業 豊地まちづくり協議会	豊地地区は自然や文化資源が多く所在し、これらを身近なものとして活用していきます。	
中止	『豊田地区避難所運営 エリアエクストリュージョン』 豊田まちづくり協議会	住民の安全確保の為、防災検討会を設置し災害発生時の避難所のあるべき姿を模索する。	
15	コース整備10周年記念 珍布峠Oスイーツウォーキング 宮前まちづくり協議会	あまくて・なごんで・得をするウォーキングに是非ご家族、グループでご参加ください。	三重化学工業 株式会社
17	体験学習「生きるを学ぶ」 波瀬むらづくり協議会	元気な高齢者を維持するため活動サポーターの掘り起こしを行います。	株式会社 第三銀行
19	「阿坂の歴史と魅力を求めて」 阿坂まちづくり協議会	美しい風景と美味しい生産物、あまり知られていない阿坂の魅力を訪ねてみませんか！	
21	中原から一人の犠牲者も出さないために 中原まちづくり協議会	中原から一人の犠牲者も出さないために、地域の「防災力アップ」に努力しています。	

(市民活動サポート部門)

一部
中止

ページ	事業の名称／協議会・団体名	事業概要	スポンサー賞
23	「宣長さん、海を越える！」 Tulay (トゥライ)	本居宣長さんの絵本を作って、国内外の子どもに届けたい。	松阪新電力 株式会社
25	松阪市はクラシックギターのまち！ 松阪ギター音楽協会	「クラシックギターのまち」づくりに挑戦します！	辻製油 株式会社
中止	みえ松阪マラソン応援団de地域のきすなづくり 市場庄おやじ会	市場庄おやじ会といっしょに皆で「みえ松阪マラソン」を盛り上げよう！	
中止	お外遊びを広めたい！～親子も地域も遊びで育つ～ まつさかプレーパークをつくる会	子どもの“遊び育つ力”を信じて…。全力で遊ぶ子どもの笑顔が地域を元気にします	マックスバリュ 東海株式会社
27	綿作りを通じて地域の活性化 生ごみリサイクル亀さんの家	オーガニックコットン栽培で地域を活性化。高齢者がイキイキ、若者が住みたいまちへ。	
29	三重県一のカヌー・グレンデ香肌峡の宝発掘・魅力発信 MCA松阪市カヌー協会	カヌースポーツの振興・普及を通じて素晴らしい景観を持つ櫛田川の魅力を発信します。	水谷養蜂園 株式会社
31	飯南いいとこ！わくわく音楽祭 の開催 音楽のアトリエ ムジカーノ	飯南で音楽祭を開催。出演者と来場者が一体となり、音楽と飯南の魅力を再発見！	

※「株式会社 第三銀行」は、2021年5月1日に「株式会社 三重銀行」と合併し、「株式会社 三十三銀行」に商号が変更されています。

※発表団体の名称は、採択時のものを掲載しています。

令和2年度 松阪市地域の元気応援事業ふりかえり報告書

<地域力アップ部門>

住民協議会名 松尾まちづくり協議会

事業名 風水害、土砂災害における早期避難体制への取り組み

事業概要・目的	大規模災害時に対処するために地域主導の防災への取り組みを進めている。河川の氾濫や土砂災害の発生時に早期避難を促す体制や、災害時要支援者の名簿作成を進め、それを活用した訓練を行う予定である。 また、避難所開設に必要な資材・物資も整えていく。			
現状と課題	松尾地区においても温暖化による気象状況の変化により将来的に水害、土砂災害発生の可能性が高くなってきていると考えられる。しかし、災害時要支援者の避難計画を策定しようにも個人情報保護の観点から要支援者情報が開示されない状況である。 また、女性の視点に立ち避難所生活に必要な物資についての備蓄等を進め、女性への支援を行っていくべきである。			
事業内容	・台風等の水害、土砂災害における要支援者名簿の作成と早期避難体制への取り組みを進めるため、名簿の記載内容や体制づくりの検討を行った。 ・段ボールベットやレジャーマットの備蓄を進め、それらを実際に活用した避難所運営訓練を令和3年2月21日（日）（防災訓練時）に行い大規模災害に備えた取り組みを行った。 ・防災訓練は新型コロナウイルス感染症に対応した初動期の避難所開設訓練及び避難所運営訓練に切り替えて行った。 ・避難所運営で見落としがちであった女性の視点を考慮し、女性用品（生理用品、女性用下着）の備蓄を進めた。			
	事業費	(採択金額)	200,000円	(総事業費) 268,826円
	実施日・期間	令和2年4月1日～令和3年3月31日	参加対象者人数	松尾地区全住民
工夫したところ 悩んだところ	今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、会議や様々な事業等を実施するにあたり、非常に困難を極める年であった。 そこで、防災訓練（令和3年2月21日実施）では、新型コロナウイルス感染症に対応した初動期の避難所開設訓練及び避難所運営訓練を行い、受付方法を体験し、多様な避難場所の確保が必要となった。			
成果・効果	近年の気象状況の変化等により、松尾地区においても水害、土砂災害が発生するという理解が進めば、個人情報保護により進まなかった要支援者名簿の作成が前進することとなり、その体制づくりへ地域からの協力が進むことが期待できる。 また、段ボールベット、レジャーマット、女性用品の備蓄が進んだことにより、大規模災害に備えることができた。			
これからの 事業展開	要支援者名簿の作成や避難所生活に必要な物資の備蓄等を進め、住民が安心して生活できる地域となるよう今後も事業を進める。			

写真など



新型コロナウイルス感染症に対応した初動期の避難所開設・運営訓練の様子①



新型コロナウイルス感染症に対応した初動期の避難所開設・運営訓練の様子②



防災訓練の様子
(段ボールベットの説明)



防災訓練の様子
(段ボールを利用した間仕切製作体験)



防災訓練の様子
(レジャーマットの説明)



女性用品の備蓄

令和2年度 松阪市地域の元気応援事業ふりかえり報告書

<地域力アップ部門>

住民協議会名 大石地区まちづくり協議会

事業名 「つながり街道文化の伝承・地域の成り立ちを考える」

事業概要・目的	地域を横断する「伊勢本街道」、「和歌山街道」は、地域の『生活道』として、大和、近畿を結ぶ参宮、熊野、吉野詣での『巡礼道』、そして、志摩、南紀の海産物を大和地方に運ぶ『交易路』、江戸時代には『参勤交代路』に整備され、広域的な歴史街道として重要な役割をはたしてきた。その街道の役割を担い、地域の今につながる『街道文化』を今後を担う子ども達をはじめ、さまざまな世代への伝承、地域の成り立ちを考える、地域づくりに取り組む。			
現状と課題	児童生徒、複数世代家庭の減少、高齢者、独居高齢者の増加などが急激に進行するなかで、歴史文化をはじめとする地域の魅力や、交流の機会が伝承・継承されなくなって来ている。平成29年度の元気応援事業に応募し、「街道表示板」の整備を進めてきたが、地域に街道文化の関心・継承が進んでいない。			
事業内容	【街道文化の伝承講座】（街道文化について学ぶ） ○伝承講座1：「つながる和歌山街道の宿（しゆく）探索会」（令和2年11月28日） 松坂までの波瀬、七日市、宮前、大石の宿を地元の方の案内で探索会を開催 ○伝承講座3：地域学習「ひなまつりウォーキング」（令和3年2月28日） 地域の旧和歌山街道において地域の街道文化、地域の見所を伝承 ○伝承講座2：本居記念館ミニ講座「宣長と旅」訪問講座（令和3年3月13日） 紀州候への講話に和歌山街道を旅された宣長さんの紀行「紀見のめぐみ」に学ぶ 【街道文化の伝承表示の整備】 ○少し広域的に街道表示板の整備 地域と街道でつながる「茅原地区」、「飯南地区」に街道表示の整備（8枚） ○「街道のぼり」の製作 和歌山街道、伊勢本街道のぼり製作（15枚）、協議会のぼり（10枚）製作 ○「街道文化伝承マップ」の製作（クリアファイル型マップ）1, 500枚作成 ○「歴史街道ボランティアの会」活動 旧和歌山街道等の街道の清掃、整備作業を年2回の実施			
	事業費	（採択金額）	400,000円	（総事業費） 418,008円
	実施日・期間	令和2年4月1日～令和3年3月31日	参加対象者 人数	街道講座、整備98名
工夫したところ 悩んだところ	コロナ禍の中、大勢の参加者を集めることができなかったこと、また、広域的な視点で、伊勢本街道、和歌山街道の「つながる街道文化」（県外）等での伝承につなげることが出来なかった。 街道文化の伝承について、地域の多くの方に気づいていただくこと、今につながることを伝える手法、手段について。			
成果・効果	「街道文化の伝承講座」を通して、今の地域へのつながりについて、考えることが出来たこと。 伊勢本街道、和歌山街道が通る地域の魅力について、地域の皆さんに伝え、共に考えることが出来たこと。			
これからの 事業展開	協議会事業（ウォーキング等）において、地域の街道をフィールドに、子ども達をはじめ、多くの世代への「街道文化の伝承」に取り組んでいきます。 また、広域的な視点で（県外も含め）地域との関係性を学習する「街道探索会」などの事業実施を検討します。 そして、「歴史街道ボランティアの会」による旧街道の見所等の整備、保存活動を継続します。			

写真など



つながる和歌山街道の宿（しゅく）探索会



地域の街道ひなまつりウォーキング



7



参宮待所の雲霞灯
文久二年（1862）築
下茅原神社に所蔵

道標

渡しの六字番号碑

はかり石

打ち込み

街道表示板



街道のぼり



「街道文化伝承マップ」（クリヤファイル型マップ）

令和2年度 松阪市地域の元気応援事業ふりかえり報告書

<地域力アップ部門>

住民協議会名 西黒部まちづくり協議会

事業名 オール西黒部 体力アップで避難所ゴー！！

事業概要・目的	住民一人ひとりの現状の体力を数値化して把握すること及びその体力を事業・行事で維持向上させることで、日々元気で暮らせる地域を創り上げる。 加えて、災害などの際に、自力で避難行動ができるオールシニアの西黒部を目指す。			
現状と課題	・行事等への参加者が一部の人に限られている。また、女性に比べ男性の参加者が少ない。 ・高齢化が進む中で、現行の行事では参加率を上げることや地域の一員であることを理解してもらうことが難しい。 ・住民の健康への意識があまり高くない。			
事業内容	・地域的に沿岸部であるため、大きな災害に備えて防災用リヤカーを購入し、3町(西黒部町、高須町、松名瀬町)それぞれに保管場所を考えて地域で保管した。 ・自分の体力を知るため体力測定を行った。その際、健康づくり課、第四地域包括支援センターにスタッフとしてお手伝いをいただいた。 ・個人別の体力評価表(レーダーチャート：敏捷性、平衡性、筋力、持久力、柔軟性、判断力)をつくり、自分の体力を見える化し意識高揚を図った。合わせて、健康づくり課や第四地域包括支援センターのアドバイスをいただき作成した『ながらちよいトレ(毎日 体を動かそう)』と題した、1週間分のストレッチメニューとともに参加者に返し、日々体力向上の意識を持ってもらうように働きかけた。			
	事業費	(採択金額) 400,000円	(総事業費)	413,401円
	実施日・期間	令和2年10月24日(土)	参加対象者人数	西黒部地区住民 84人
工夫したところ 悩んだところ	・コロナ感染症拡大により2020年度に予定していたいろいろな行事が予定通りに開催できない状況であるため、9月に予定していたウォークラリーと同時開催とした。 ・測定器について手作りできるものは手作りをし、遊び心満載の事業で参加しやすいように工夫した。			
成果・効果	・自分の体力評価を知ることにより、健康への気づきや意識が芽生えた。 ・防災用リヤカーを地域住民に披露することができて、西黒部地区の防災への取り組みを知らせることができた。			
これからの 事業展開	体力測定は繰り返し続けることにより、やりがいや健康への意識向上につながり、ひいては各個人の体力アップにつながると考えることから、今後も高齢者のみならずすべての地域住民に輪を広げて、体力測定の機会を設けていきたい。			

写真など



《 考えて歩こう 》
右足、左足、次はどちらの足？
平衡性や判断力を測ります。



《 何回持てるかな？ 》
さあっ！がんばって2キロの重りのついた紐
を引っ張りましょう！ 持久力を測ります。



《 もぐらたたき 》
集中！集中！もぐらがどこから顔を出して
くるかな？
大きな 笑いの輪が広がり、びんしょう性を
測ります。



《 どこまで押せるかな？ 》
はい、そのまま前へ箱を押し出してくださいー
い。
何センチ前へ動いたかな？ 柔軟性を測ります。



《 防災用リヤカー 》
カイバナ眼科クリニックさんからいただいた
スポンサー賞で防災用リヤカーを3町に配備
しました。



《 ボール投げ 》
助走をつけずに立ったまま、おじゃみ（お手
玉）を投げて、それっ！
筋力を測ります。

令和2年度 松阪市地域の元気応援事業ふりかえり報告書

<地域力アップ部門>

住民協議会名 松ヶ崎まちづくり協議会

事業名 これからの10年 松ヶ崎まち協活動の柱は＝継続と発展！

事業概要・目的	過去・現在の事業・活動を検証しつつ新たに松ヶ崎の課題・問題点を洗い出す事で、地域づくり団体として、地域に支持される事業内容を確認し「元気・笑顔が溢れるまち」の創造に務めてきた。			
現状と課題	松ヶ崎地域においては少子高齢化が急速に進んでいる結果、下記の問題点が生じている。 ・若い世帯の他地域への移住により子供の人数の減少が著しい。同時に空き家の増加が目立つ。他にも放置された田畑が引き起こす自然環境問題等、人々の心配の種は尽きない。 ・沿岸地域の最も警戒しなければいけない「南海トラフ地震」「台風等豪雨」への脅威など、安全・安心策の構築が不可欠な地域でもある。			
事業内容	現状と課題を踏まえ、次の事業・活動を強力に推進した。 1. 子ども元気応援事業の推進（地域の防災・コロナ禍で疲弊した心のケア等） 2. 高齢者元気応援事業の推進（新型コロナ学習会・交通安全教室・マスクの配布等） 3. 豪雨等により被災した方を地域で助け合う「松ヶ崎地域内共助」の仕組みを確認。さらには、地域版「松ヶ崎の防災」（パワーポイントを活用）を防災学習の教材として作成。 4. 多くの人々が楽しく集う交流事業として「松ヶ崎桜まつり」を開催。 ※なお、上記の事業については、新型コロナウイルス感染対策を徹底し開催した。特に桜まつりでは事前にマスクの着用等周知を図り、350人余の来場者全員がマスクを着用され桜祭りを楽しまれた。 5. 新型コロナ感染症が蔓延する中、全戸にコロナウイルス感染対策チラシを配布し、感染症への自己対策を強く呼びかけた。			
	事業費	(採択金額)	400,000円	(総事業費) 427,188円
	実施日・期間	通年		参加対象者人数
工夫したところ 悩んだところ	1. 事前に子供・高齢者の意見、希望を取り入れた行事を企画することで、多くの人々の関心が高まりをみせた。ただ、コロナ禍の中、受講人数の制限を施す必要があった。また、子供・高齢者行事については、コロナ感染症対策に最も神経を使うなど、安全・安心を重視した開催に最も神経を注いだ。 2. 豪雨等により被災者を地域で助け合う「松ヶ崎地域内共助」の仕組みについては、各自治会の関心も高く前向きに協議を進められた事で「松ヶ崎地区台風・豪雨等地域防災計画」の策定に大きく貢献した。多発する集中豪雨等の対策が実現したことは最大の成果と評価している。			
成果・効果	コロナ禍の中、上記の事業を推進したことで「地域住民の高齢化問題」「みんなで見守る子供の育成」と「南海トラフ・台風・豪雨等への災害への備え等」多くの人々の関心を引き起こす一環になったと評価できる。			
これからの事業展開	1. 松ヶ崎においても高齢化が急速に進んでおり、高齢化問題を地域住民に正しく提起する事は事業を推進する上で欠かせない取り組みである。そして継続して行う事で多くの人々が高齢化問題への関心が高まり、その“心”が一つになる事で高齢化社会のあるべき姿を見出せるものと確信している。 2. 「松ヶ崎地域内共助」については、防災計画に基づき図上訓練等を計画し、実態の伴った行動を展開する。 3. 「安全・安心の地域づくり」は地震・豪雨等の自然災害にとどまらず、交通安全、防犯対策、加えて「新型コロナウイルス対策」など幅広い視点で取り組みを進める。			

写真など



交通安全教室



健康講座



松ヶ崎桜まつり



防災学習会



地域内共助



コロナ感染症対策チラシ

令和2年度 松阪市地域の元気応援事業ふりかえり報告書

<地域力アップ部門>

住民協議会名 神戸まちづくり協議会

事業名 神戸ふれあい農園のステップアップ

事業概要・目的	神戸ふれあい農園には、子供農園と家族農園があります。 子ども農園では野菜づくりを通じて、ものづくりの大切さ、楽しさ、喜びと助け合いの心を養う事、家族農園では地域のふれあいの場としての活用を目的に設立しました。 設立から3年が経過する中、いろいろな課題が見えてきました。さらに地域の皆さんに喜んでもらえる「神戸ふれあい農園」を目的にステップアップとして改善改良に取り組みました。				
現状と課題	子ども農園 令和元年度では、第五小2年生が、サツマイモの苗を植えて10月に収穫をしました。が、さつまいもが小さく収穫量も年々少なくなっていました。 家族農園 22区画の貸し農園がありますが、解約申し出が多く、募集をしました。が借り手が無く空いたままです。高齢で畑仕事が困難だというのが解約の理由でした。				
事業内容	子ども農園 毎年6月に第五小2年生全員がサツマイモの苗を植え、10月に収穫をして、ものづくりの楽しさ喜びを知ってもらうという取り組みのスケジュールに合わせ、畑の土壌改良に取り組みました。土壌調査の結果を踏まえ、肥料やさいぬか、山砂等を入れてさつまいもが育ちやすい畑へと改良しました。肥料や材料を購入し、畑での混入作業は地域の協力者や協議会委員で行いました。 家族農園 農園利用者が高齢でも畑仕事が出来るように、省力化を図りました。誰でも使い易い小型の管理機を購入し利用者に無料で使ってもらえる様にしました。又、畑作業の間に利用者が座って休め、利用者同士の語らいが出来るベンチを設置しました。				
	事業費	(採択金額)	200,000円	(総事業費)	309,437円
	実施日・期間	令和2年4月1日～令和3年3月31日		参加対象者人数	小学生含め述べ338名
工夫したところ 悩んだところ	土壌改良の効果が、秋の収穫の時まで分からず不安でしたが、成果が出ており良かったです。 小型の管理機を購入したが、農園利用者が安全に使いやすい管理にするため、講習会を開催、また個別指導を行いました。管理機が使えない方もおられ、お手伝いをしました。				
成果・効果	子ども農園では、収穫量がアップし子供たちが収穫の喜びを感じてくれましたが、まだ満足のいく状況ではなく更に改良を進めます。家族農園では、高齢の方でも畑仕事がしやすくなったと喜んでもらい、貸し農園の空きが2区画と減少しました(令和3年4月)				
これからの事業展開	利用者の声をよく聞いて、更に改良を図り、農園設立の目的であるお年寄りから子ども達までが、この町に住んで良かったと言える「ふれあいの場」として活用できるよう取り組んでいきます。				

写真など



土壌改良
(さいぬかの投入)



土壌改良
(さいぬか/山土/肥料の畑への混入作業)



小型管理機講習会



ベンチでの語らい



サツマイモの収穫 (10月14日)



サツマイモの収穫 (10月14日)

令和2年度 松阪市地域の元気応援事業ふりかえり報告書

<地域力アップ部門>

住民協議会名 徳和住民協議会

事業名 お父さんの出番やに♪

事業概要・目的	徳和地域で暮らす住民が、安心して暮らせる地域をつくるために、世代をこえて交流を持ってもらえる関係を作る。 30代前後から50代前後の男性を中心に、まずは住民協議会のイベントなどに参加してもらい、自治会等の地区を超えて徳和地域での交流を深め、将来的には地域活動の原動力となってもらえる後継者を育てていきたい。		
現状と課題	・住民協議会が発足して8年が経ち、今後も活動を維持していくためには、次世代の担い手・後継者を育てていく必要がある。 ・住民協議会等で親子参加のイベントなどを開催しても、母親との参加は多いが、父親と参加する親子が少ない。また、他のイベントでも若い世代の男性の参加が少ない。		
事業内容	①8月23日（日）開催 『親子対抗eスポーツ大会in徳和』 今までにない新しい取組として、eスポーツを取り入れた行事を企画。初心者でも簡単に参加できるゲームとして、使用機器にPlayStation4「ぷよぷよeスポーツ」を用いて、午前・午後の部に親子ペア各8組参加。4組ずつに分かれて予選リーグ戦を行い、上位2組、計4組による決勝リーグで優勝を決めた。参加したすべての親子に楽しんでもらえるように、予選下位2組も順位決定戦を行い各部の最後まで参加してもらった。 ②9月27日（日）開催 『パパとつくる、パパッと料理教室』 簡単に作れる料理を父親と子が一緒に作れる料理教室を企画。ワークセンター松阪の調理講習室を使用し、調理台1つに1組の親子、計5組に制限して実施。オムライス、コーンスープ、リンゴのカップケーキを作ってもらい、その場では食わずに持ち帰ってもらった。 ③10月11日（日）開催 『キット気になるキッズ木工教室』 松阪地区清和会の方々にご協力いただき、ミニプラントの木工キットを使って親子で協力して作ってもらう木工教室を企画。午前・午後の部に分けて8組ずつ参加。プラント作りが終わり、余った時間で木製のコースターやキーホルダーを余った部材で作ってもらった。 当初の事業計画では、4・5回の開催を計画していたが、コロナ禍の影響もあり事業計画段階で、取り止めた事業等もあった。		
	事業費	(採択金額) 400,000円	(総事業費) 414,336円
	実施日・期間	8月23日（日）、9月27日（日）、10月11日（日） 計3回	参加対象者人数 子育て世代の男性とその子ども3回合計152名
工夫したところ 悩んだところ	eスポーツ大会は、運営・開催方法を三重県eスポーツ連合様に協力していただき開催することができた。大会前には、体験会、練習会を数日用意して大会に参加しない人、参加するが対象のゲーム機器を持っていない人なども競技ができる環境を整えた。 料理教室は、料理の持ち帰りを前提として親子が簡単に作れる料理を講師の先生などと事前に打ち合わせを重ねてメニューを決めていった。 木工教室は、松阪地区清和会様に協力いただき参加者の親子が簡単に制作できるように専用キットを用意していただいた。		
成果・効果	子育て世代の若い男性に住民協議会を知ってもらえる機会を作れた。きっかけ作りとしてはまずまずの成果であったと思われる。 今後の課題としては、住民自治協議会をもっと多くの子育て世代の方に知ってもらえる体制を整える必要がある。子供や親の目に留まるように、小学校等にも協力いただいてチラシを学校で配ってもらったり、子供会のある自治会への周知、公民館だけでなくSNS等で情報発信を続け、住民自治協議会の活動を知ってもらう努力が必要であると感じた。		
これからの事業展開	親子で楽しめる事業から、徳和を知る事業、防災を学ぶ事業、徳和クリーンアップ作戦事業等々、様々な分野を親子で参加できる事業として企画して継続した事業実施に繋げていきたい。 また、令和3年度から「子どもで創る住民自治協議会」を新規事業として立ち上げており、子ども目線でやりたい事などを話し合ってもらい、出てきた案を実施できるように学校や地域と協力していく。そこに親も参加できるような事業に繋げていく。		

写真など



『eスポーツ大会 in 徳和』
いつもは仲良くて、今日は勝つ！



『eスポーツ大会 in 徳和』
優勝トロフィー 獲ったど〜♪



『パパとつくる、ぱぱっと料理教室』
料理の基本は、下ごしらえが大事！



『パパとつくる、ぱぱっと料理教室』
どや！父ちゃん上手やろ！
父ちゃん！すげ〜っ！！



『キット気になるキッズ木工教室』
みんな上手に作れるかな？



『キット気になるキッズ木工教室』
上から真っ直ぐに打ち下ろす！

令和2年度 松阪市地域の元気応援事業ふりかえり報告書

<地域力アップ部門>

住民協議会名 宮前まちづくり協議会

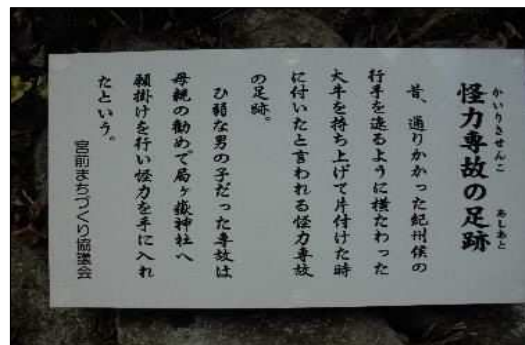
事業名 コース整備10周年記念 珍布峠〇スイーツウォーキング

事業概要・目的	コース整備10周年を記念し、老朽化した史跡表示柱を新設するとともに、枯れた紅葉等の補植を行いコースをリニューアルし景観を良くしたい。また、地域住民だけでなく広く松阪市民の皆様に呼びかけてコース整備10周年記念「珍布峠〇スイーツウォーキング」を開催し、再整備したウォーキングコースの魅力を発信したい。			
現状と課題	飯高駅を中心に宮前地域の活性化を図ってきたが、飯高駅の集客やウォーキング数は横ばいの状況である。同様のコースが周辺に整備されたことやリピーターの伸び悩みがみられるようになった。また、コース整備開設から10年が経過し、史跡表示柱の腐食なども目立つようになった。			
事業内容	老朽化した史跡表示柱6本を撤去し新設した他、新たに9つの看板を設置。その内3つは飯高中学校生徒と協働で制作した。また、枯れた紅葉等を伐採し、要望の多かった河原の整備を行い、川の近くまで行けるようにした。 「珍布峠〇スイーツウォーキング」に関しては、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から広く松阪市民の皆様に呼びかけることを諦め、地域住民のみ参加のウォーキングとした。地元スイーツを試食しながらのスイーツウォーキングの予定は変更し、参加賞とすることで自宅に持ち帰って試食していただく事とした。また、参加賞に抽選番号を付けくじ引きを行い、地元飲食店の食事券や特産品を景品とし、新型コロナウイルスの影響を受けた企業を応援した。			
	事業費	(採択金額) 400,000円	(総事業費)	459,718円
	実施日・期間	2020年10月25日(日)	参加対象者人数	120名
工夫したところ 悩んだところ	新型コロナウイルス感染症により開催自体をどうするか悩んだが、珍布峠〇スイーツウォーキングの市内全域への参加呼びかけから変更し、地域住民限定の申込制とした。 また、計画では地元のスイーツを試食しながらのウォーキングであったが、試食を中止し、地元のスイーツは参加賞として自宅で試食できるようにした。また、受付では検温、アルコール消毒を実施し、感染症対策をした上で参加いただいた。			
成果・効果	参加した地域の方々は、ウォーキングをしたことで自然やスイーツなど地元の魅力を再発見したようであった。新型コロナウイルスの影響もあり、当時の現状以上に厳しい状況ではあるが、この方々が友人、知人に話したり、地元スイーツをお土産に使っていただいたりすることで地域に人を呼びきかけになればと期待している。			
これからの事業展開	今回整備した河原に休憩場所を設置するなど、更なる充実を計っていききたい。また、今後も宮前フェスティバルなどのイベントを通して地域の魅力を発信し、交流人口を増やし、さらには地域の発展に繋げていきたい。			

写真など



老朽化したものを撤去し、新たに新設した史跡表示柱



老朽化したものを撤去し、新たに新設した看板



枯れた紅葉等を伐採し、整備した河原



珍布峠〇スイーツウォーキング
準備体操の様子



珍布峠〇スイーツウォーキング
ウォーキング中の様子



珍布峠〇スイーツウォーキング
ゴール地点の様子

令和2年度 松阪市地域の元気応援事業ふりかえり報告書

<地域力アップ部門>

住民協議会名 波瀬むらづくり協議会

事業名 体験学習「生きるを学ぶ」

事業概要・目的	休校中の波瀬小学校を活用して行っている体験学習「生きるを学ぶ」に継続して取り組む。また、併せて事業を手伝っていただくサポートスタッフの新規掘り起こしと活動に必要な資機材の補充を行う。			
現状と課題	指導員の高齢化で将来への事業継続に不安があるとの声があがり、テント設営体験場所の管理に必要な芝刈り機の新規購入や飯盒炊飯を行うコンロ等の補充が課題となっていた。			
事業内容	老人クラブの会員や波瀬むらづくり協議会が年間を通じて行っている行事のスタッフとして約150人近い方が何らかの活動をしていただいています。年々、高齢化が進む当地域では現状を継続して維持するために、体験学習「生きるを学ぶ」のサポートスタッフの新規掘り起こしに取り組みました。 【具体的な内容】 ①ウォーキング初級者コース（宿場の道）の新規ボランティアガイドを3人確保しました。スタッフの新規育成にあたっては、飯高中学校の社会見学、川俣公民館、大石地区まちづくり協議会のウォーキング時に研修を兼ねた補助ガイドを経験しました。 ②波瀬ゆり館で行っている「生きるを学ぶ」体験学習の新規スタッフを2人確保し、芝刈り機による芝生の管理とあまごのつかみ取り及び塩焼きの経験をしていただきました。 ③夏まつり時の盆踊りの踊り手や音頭取り、太鼓たたきなど伝統文化の継承者を新規で4人確保しましたが、新型コロナウイルスの影響でイベントが中止となりました。			
	事業費	(採択金額)	400,000円	(総事業費) 459,520円
	実施日・期間	令和2年4月1日～令和3年3月31日	参加対象者 人数	887人
工夫したところ 悩んだところ	地域資源を活用した3つのキーワード（山、川、里）を用いて、わかりやすい体験学習メニューを提供しました。 サポーターの高齢化による、夏季の体調管理に配慮したローテーションと、スポーツドリンクや塩飴を常備して熱中症予防にも取り組みました。 新型コロナウイルスの感染予防のためマスクの着用と消毒を徹底しました。			
成果・効果	団体によっては、新型コロナウイルス感染予防のため団体内の指導員による自主運営を申し出ていただいたところもあり、高齢化が進む当地域のスタッフにとっては最小限の人数で運営可能なプログラムの掘り起こしにヒントをいただきました。			
これからの 事業展開	現時点で、新型コロナウイルスの影響で予約団体の伸び悩みは続いています。次年度以降の取り組みに向けた新たなメニュー作りへの準備期間として環境整備に取り組みながら継続していきます。			

写真など



ウォーキング「巡礼の道」コースのガイドボランティア活動
秋の泰運寺は、約700本のかえでやもみじが植栽されています。



ウォーキング「宿場の道」コースのガイドボランティア活動
春は、ミズバショウで有名な「波瀬植物園」と本陣跡周辺の散策が一番人気です。



校舎に囲まれた中庭は、5人用テント設営に最適な場所です。
芝刈り機の導入で、芝生管理に要する労力が軽減されました。



体験メニューの中で一番人気なのがアマゴのつかみ取り&川遊びです。



飯ごう炊飯で火加減の難しさを体験します。



体験学習「生きるを学ぶ」
川に生きるのメニュー アマゴのつかみ取りと塩焼きで命をいただくを伝えています。

令和2年度 松阪市地域の元気応援事業ふりかえり報告書

<地域力アップ部門>

住民協議会名 阿坂まちづくり協議会

事業名 阿坂の歴史と魅力を求めて

事業概要・目的	阿坂地区には、数多くの歴史・文化的な史跡や、四季を通じ素晴らしい景観や多くの名所があります。また、穏やかな気候と肥沃な土地が広がり、美味しいお米や野菜が採れる地域です。しかし、若者が働くことが出来る産業が無く若者の流出が止まらず過疎化が進行しつつあります。この様な現状を打破するには、数多くある阿坂の魅力を積極的にアピールし、地区内の若者にはこの地区に留まって貰えるように、また、地区外の人々には移り住むきっかけを作ることを目的とします。			
現状と課題	一昨年、昨年と実施した婚活については、当初の目的だった地元若者の参加が少ないこと、また、大きな事業を2つ同時開催することで、主催者側の負担が大きいことから、今回は、白米城（阿坂城）に関する隠れた史跡や、地元住民が精力的に整備した「美濃田竹林」、大切に管理されている「美濃田大仏」、綺麗に整備された田園風景などの魅力を積極的にアピールすることに取り組み、白米城登以外にも阿坂の魅力を発信することが出来ると考えます。婚活については、開催方法・内容等を再考し元気応援事業とは切り離し別の機会に継続して取り組みます。			
事業内容	1. 白米城の隠れた史跡（土塁、竪堀、堀切等）の調査と整備、案内板の設置。 2. 白米城登山ルートの整備 ・ 毎年の台風、降雨などによる登山ルート損傷個所の整備。 ・ 史跡（白米城、椎の木城、高城）などの草刈などの整備。 3. 美濃田大仏殿～竹林～ベルファーム へのウォーキング看板設置 4. 阿坂史跡マップのバージョンアップとして山城会との交流、史跡の説明 ・ 土塁などの追記 5. おもてなし ⇒ コロナウイルス感染症の拡大防止の観点からおもてなし事業は中止しました。 ・ 地元野菜を使った大鍋、特産品などの振る舞い。 ・ 農家市場の開催。			
	事業費	(採択金額) 200,000円	(総事業費)	235,979円
	実施日・期間	2020年7月16日～11月15日	参加対象者人数	整備作業150人（延べ人数）お披露目ハイキング113人
工夫したところ 悩んだところ	今年にはコロナ禍の為、大人数の集まる「おもてなし」イベントを取り止めました。また、少人数でも出来る阿坂の魅力アップのための史跡整備（白米城の土塁や竪堀の跡などの表示や地図看板取付、美濃田大仏殿から竹林～ベルファームへのウォーキングマップの看板設置など）を行いました。11月15日にはお披露目登山を地区住民に限定し人数を少なくして行いました。			
成果・効果	史跡の表示や周辺地図看板の設置整備ができました。また、これにより「阿坂史跡マップ」もより分かりやすく見やすいものに更新することができました。阿坂の魅力発信に役立ってます。			
これからの 事業展開	阿坂のシンボルである白米城の魅力をさらにアップさせる活動を展開します。 ①登山人数の把握とアイデア目安箱の設置 ②駐車場の拡大 ③マスコットメダルやスタンプの作成など、将来に事業が行えるように集客力を付けて、コミュニティー化に備えます。			

写真など



白米城の地図看板設置作業



白米城入りに設置された地図看板



竪堀跡の整備作業（白米城跡）



竪堀の整備後と表示看板（白米城跡）



作成した美濃田の史跡マップ看板



お披露目登山に集まった地元住民の方々
（白米城跡 山頂）

令和2年度 松阪市地域の元気応援事業ふりかえり報告書

<地域力アップ部門>

住民協議会名 中原まちづくり協議会

事業名 中原から一人の犠牲者も出さないために

事業概要・目的	想定されている巨大地震や津波、想定外の規模で襲来する大雨災害に対して、「自分のところは大丈夫」「津波や大洪水なんか来たこと無い」という過去の経験則によって生み出されている思い込みからの脱却を図り、住民みんなで、「少なくとも命だけは守るためにまず逃げる」意識と意志を確立し、避難のための道標を明確にするとともに共助の醸成を目指します。			
現状と課題	当中原地区は、14自治会の内半数以上が南海トラフ巨大地震に伴う津波被害の想定区域に含まれます。また域内を一級河川三渡川が縦貫しています。その上流部の自治会の上側には9つのため池が存在しており、そのうち6池が防災重点ため池に指定されています。幼稚園児・小学校児童はじめ地域住民全員が安全に避難できる方策が打ち出されていない現状がある。可能な限りの方策の実行を通しての「地域防災力の数段階のレベルアップ」が望まれています。			
事業内容	○家具固定キャンペーン事業実施 ・防災計画推進委員代表研修会の実施 ビデオ視聴、松阪市防災対策課の協力 ・防災士の協力のもと家具固定金具の種類を検討する。 ・家具固定キャンペーン（希望者募集）のチラシ全戸配布（100個限定） 各自治会の防災計画推進委員の協力による各家庭への家具固定推進運動展開 ・申込受付（85個） ・推進委員が配布 ・各自家具に取付し、取付た写真の提出をお願いする。 ・申込者の中で、取付希望の家は防災士さんをお願いし、まちづくり協議会役員と取付に伺う。 ○防災マップの全戸配布 ・むつみ福祉会様と防災協定（避難所提供）締結 各自治会が自地区の避難場所、避難ルートを検討し、報告。 ・それをもとに、三渡川のハザードマップ縮小地図にルートを書き込み、各自治会毎の独自の避難マップを作成。 裏面には、避難行動の方法、非常持出しの一覧等を表示。 ・マップをラミネート加工し、全戸配布。家庭で話し合いの場をもってもらい、いつも目に付くところにかけてもらう。			
	事業費	(採択金額)	200,000円	(総事業費) 331,958円
	実施日・期間	8月～3月		参加対象者人数 中原全戸984戸
工夫したところ 悩んだところ	・コロナウイルス感染拡大防止のため、家具固定金具設置の推進活動としての研修会等が開催できなかった。 ・家具固定キャンペーンチラシ内容をカラー化し、申込を促した。 ・各家庭に配布する防災マップは、手ごろな大きさとよりわかりやすくを心がけた。			
成果・効果	・家具固定普及率10%には少し達しなかったが、実際取付に伺ったお宅によっては、家具固定、備蓄、非常持出し準備など十分にされ、防災に対し意識の高い住民の存在を実感した。 ・ハザードマップ上での避難ルート検討は、色で浸水区域状況の表示があり、どの地区においても再検討ができ、効果があった。			
これからの事業展開	・家具固定普及率さらなる向上のため、キャンペーンの継続。 ・自治会毎の避難先表示の看板設置。 ・防災訓練の実施（ハグ） ・家庭用備品の備蓄意識向上。			

写真など



- ・各自治会の防災推進委員さんの研修会開催
- ・むつみ福祉会さんと防災協定結ぶ。一次避難所として施設提供。



- ・家具固定キャンペーンのチラシ作成。
- ・地区全戸配布



- ・家具固定金具申込希望者集まる。
- ・集計、発注後、各自治会の防災推進委員が申込者に配布



- ・申込者各自家具に取り付ける。
(食器棚、タンス、プレーカーボックス)



- ・取付希望者宅には、防災士さんとまちづくり協議会役員で取り付けに伺う。



- ・自治会別防災マップを作成、地区全戸配布する。

令和2年度 松阪市地域の元気応援事業ふりかえり報告書

<市民活動サポート部門>

団体名 Tulay（トゥライ）

事業名 「宣長さん、海を越える！」

事業概要・目的	松阪市民：松阪愛を生み、育てること 市民以外：本居宣長を知ってもらうこと			
事業内容	松阪市の偉人である「本居宣長」を題材とした漫画と教科書があります。対象は小学生中学年～高学年。より小さな子どもたちにもわかるように宣長さんの絵本を作成し、宣長さんのことを知ってもらいたいと思います。 また、日本語だけでなく英語表記も加え、海外の子どもたちにも宣長さんのことを知ってもらいます。海外については、フィリピン・マニラの小学校への寄贈を予定しています。市内においては、幼稚園や保育園、小学校に寄贈します。絵本を通し、子どもたちには宣長さんの「勤勉さ」や「実直さ」を伝えたいと思っています。			
	■具体的な事業と効果 ・原案の作成⇒印刷・製本⇒配付 ・英語による「読み聞かせ」の実施 効果：本居宣長さんを知ってもらうツールとして、教育機関に提供することで、小さな頃から松阪市の偉人に触れられる。これが、その後の教材や漫画、宣長記念館への訪問にも影響すると考える。その果てには、「松阪愛」が生まれ育つことを願う。			
	事業費	（補助金額）	100,000円	（総事業費）
	実施日・期間	2020年4月～2021年3月	参加対象者 人数	市内小・中学校47校 とマニラの学校等
工夫したところ 悩んだところ	新型コロナウイルスの感染拡大により、子どもたちへの読み聞かせやマニラへの寄贈訪問など断念せざるをえない事もあったが、絵本の完成と寄贈という点においては、完遂することができました。			
成果・効果	市内やフィリピンの子どもたちが、「宣長さん」という人物を知り、彼の人生から何かを学び取ることができると信じています。学び取る部分は、子どもたちそれぞれの価値観で良いと思いますが、勤勉で、真面目な宣長さんの人柄から古事記の解説という大きな偉業を成し遂げられたということを知って欲しいと思います。			
今後の事業展開	今のところ大きな予定はありませんが、次の題材探しを充電しながら選んでいきたいと思っています。フィリピンの偉人を探すのも文化交流という視点では興味深い視点かと考えています。			
地域との連携	なし			

写真など



作業風景①



作業風景②（宣長記念館にて）



市へ寄贈しました

令和2年度 松阪市地域の元気応援事業ふりかえり報告書

<市民活動サポート部門>

団体名 松阪ギター音楽協会

事業名 松阪市はクラシックギターのまち！

事業概要・目的	ギターを通じた音楽文化の振興と青少年育成のため			
事業内容	全国的に、子どもたちによるギター合奏に取り組んでいる団体は多くない。そのなかで、10年ほど前から子どもやおとなへのギター指導やギター演奏の機会を増やし続けてきた。その結果としてギター合奏コンクールでいくつかの賞を受賞してきている。その礎を、この10年弱で作ってきたとはいえ、子どもたちを取り巻く環境として少子化と選択肢の拡大を理由に、「ギター」という選択をする子どもたちは少ない。そこで、今後の活動の維持と拡充を見据え、ギターを主にしたイベントを通じて団体活動の広報を行い、人材の確保となる活動への準備と挑戦をしたいと考える。 ■ 具体的な事業と効果（音楽文化の振興） ・10年を振り返る写真展の開催 ➡ 団体のことを知って頂く ・コンサート ➡ ギターの楽しさを感じて頂く ■ 教育的視点の効果（青少年の育成） ・会場設営や写真パネルの作成 ➡ こどもたちの主体性と創造性を育む ・団体の歴史を知る ➡ 帰属意識を高める			
	事業費	（補助金額） 44,797円	（総事業費）	91,710円
	実施日・期間	コロナ感染拡大防止のため中止	参加対象者 人数	－
工夫したところ 悩んだところ	写真展の準備に着手し、一部支出を行ったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。			
成果・効果				
今後の事業展開				
地域との連携				

写真など



会場装飾品の作業風景



出来上がり

令和2年度 松阪市地域の元気応援事業ふりかえり報告書

<市民活動サポート部門>

団体名 生ごみリサイクル亀さんの家

事業名 綿作りを通じて地域の活性化

事業概要・目的	綿作体験を通じて、地域のつながりや健康を増進し、地域が元気になることと、地域活性化につなげる。			
事業内容	生ごみの堆肥化・綿花栽培の二本柱で計画する。 生ごみの堆肥化は、平成16年より地域の中で知られる存在となる。 西黒部小学校の環境の事業は、18年間行っている。 綿花栽培も8年となり、栽培面積も格段に広がった。 春の種まき体験は畑での作業のみ行う予定だったが、前日・当日共に雨で行えなかった。種まきは、その後会員で行った。 綿つみ体験は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、集団にならないように少人数で毎日体験に来ていただき、48名の方の参加があった。			
	事業費	(補助金額) 100,000円	(総事業費)	170,555円
	実施日・期間	4月～11月	参加対象者 人数	48名
工夫したところ 悩んだところ	予定していた春の種まき体験は雨天のため行えなかった(後日会員が種まきを行う)が、綿つみ体験は実施し、少人数で毎日参加していただいた。			
成果・効果	参加者の中から2名会員となり、今後の事業に参加いただける人が増えた。 来年度の活動に向けて、耕作放棄地の提供があり、更なる農地の利用につながった。			
今後の事業展開	他のチームとコラボし、綿から布への道すじができた。 小学校3校へ綿くり体験を行う。 住民自治協議会と協力していく。			
地域との連携	令和3年より地域の趣味講座で12月に2回綿くり教室を行う。			

写真など



綿つみ体験



西黒部小学校
環境の事業



収穫した綿花



コットンボール



綿畑の全景



綿畑の中の様子

令和2年度 松阪市地域の元気応援事業ふりかえり報告書

<市民活動サポート部門>

団体名 M C A 松阪市カヌー協会

事業名 三重県一のカヌーゲレンデ香肌峡の宝発掘・魅力発信

事業概要・目的	① 素晴らしい景観を持つ櫛田川の魅力の発信 ② 子どもたちの水遊びの復権 ③ カヌースポーツの振興・普及 ④ 飯高の魅力の発信と地域の振興			
事業内容	①岩盤をうがって流れる櫛田川は、香肌峡県立自然公園と言う素晴らしい景観を持ち、転がる大岩やテトラポットがない安全な川です。しかしながら川を眺める公園は飯高駅の芝生公園以外にはほとんどなく、香肌峡の案内もほとんどないのが現状です。櫛田川を多くの人たちが訪れ心を癒す場となるように散策ルートの整備をしました。 ②毎年夏になると全国各地で水の事故が多発し多くの子どもの命が失われ、川の水遊びは危ないと言うのが社会通念になっています。しかしながら、ライフジャケットを正しく着用すれば沈むことがなく安全に思いっきり流水で遊べます。カヌー教室や急流救助講習会を開催し、安全な子どもの水遊びをきれいな櫛田川から発信しました。 ③2021年の三重国体で松阪市と多気町ではカヌー種目が行われます。カヌーマラソン大会を開催し、きれいな櫛田川でカヌースポーツの振興・普及を図りました。 ④過疎の進んだ飯高地区ではありますが、これらの事業を実施することで、宝物のようなきれいな櫛田川を磨いて飯高の魅力の発信と地域の振興を図りました。			
	事業費	(補助金額)	149,263円	(総事業費) 251,588円
	実施日・期間	カヌー教室7月12,19日,8月9日 カヌーツーリング大会7月24日 散策コースウォーキング11月13日 急流救助講習会9月27日		参加対象者人数 カヌー教室3回のべ21名 カヌーツーリング大会20名 散策コースウォーキング26名 急流救助講習会18名
工夫したところ 悩んだところ	全般:コロナ禍にあって予防対策に万全を図るようにしました。 カヌー教室:初心者でも最初からリバーカヤックを楽しく真っ直ぐ漕げるように艇選択に工夫しました。 カヌーツーリング大会:十分なコースの下見、当日の適切なスタッフを配置し運営しました。また、ツーリング中にライフジャケットを着けないで川遊びをする人たちが沢山いて、危ないのでライフジャケットを着て遊ぶように声掛けしました。 散策コースウォーキング:コース中にスズメバチが飛んでいるところがあったので、駆除を行いました。 小学生のウォーキングが新聞記事で紹介されて多くの人が散策コースを訪れるようになったため、コースを迷わないように宮前まちづくり協議会のメンバーと一緒にコース標識を設置しました。 急流救助講習会:セルフレスキューのイメージを説明して頭で理解しても、いざ流水で体験するとなかなか形にならなかったのですが、時間をかけて何度も体験することで習得することができました。			
成果・効果	全般:ライフジャケットを正しく着用すれば、沈むことがなく安全な子どもの水遊びが思いっきり流水でできることを発信できました。 散策コースウォーキング:散策ルートを整備することによって、岩盤をうがって流れる素晴らしい景観の櫛田川を、多くの人たちが訪れ心を癒す場となることが理解されるようになりました。 急流救助講習会:セルフレスキューの説明聞いて頭で理解しても、いざ流水で体験するとなかなか形にならなかったのですが、時間をかけて何度も体験することで習得することができました。			
今後の事業展開	コロナ禍の事業展開で十分な成果が上がったとは言えませんでした。引き続き、同趣旨で事業展開していきたいと思っています。			
地域との連携	①宮前まちづくり協議会のメンバーと一緒に、香肌峡渓流公園散策コースにルート案内標識設置や宮前小学校ウォーキング案内をしました。宝物のようなきれいな櫛田川を磨いて飯高の魅力の発信を図ることができたと思います。 ②宮前まちづくり協議会のメンバーと一緒に今後継続していく飯高の魅力の発信は、来訪者や移住者の増加に貢献し、ひいては地域の振興となるものと思われます。			

香肌峡溪流公園散策コース整備



香肌峡溪流公園散策コース 宮前小学校ウォーキング
11月13日(金) 参加者:4~6年生26名



MCAカヌー教室 7月12日(日)、19日(日)、8月9日(日) 7名



香肌峡カヌー・ツーリング大会
7月24日(金・祝) 参加者:20名



急流救助講習会
9月27日(日)
参加者:18名



令和2年度 松阪市地域の元気応援事業ふりかえり報告書

<市民活動サポート部門>

団体名 音楽のアトリエ ムジカーノ

事業名 飯南いいとこ！わくわく音楽祭の開催

事業概要・目的	飯南産業文化センターで音楽祭（コンサート）を開催する。 ①飯南地区における音楽文化の振興をはかる ②産業文化センターを音楽ホールとして使用し、音楽祭をきっかけに飯南地区の魅力をPRする		
事業内容	・市民活動団体 音楽のアトリエ ムジカーノと、飯南地区にある粥見住民協議会とが連携して実施。 ・「飯南いいとこ！わくわく音楽祭」というタイトルで、松阪市飯南産業文化センターでコンサートを開催。入場無料。新型コロナウイルス感染症流行拡大防止のため、定員数100名に限定して実施。 ・出演者は当団体の演奏者をはじめ、飯南地区や松阪市に縁のある（在住、在勤、出身）演奏者や、障がいを持ちながらも音楽活動が続ける人、ピアノを勉強中の子どもたちも出演した。 ・ロビーには、飯南の名産であるお茶や原木椎茸、ギターを中心とした楽器など、来場者に飯南の土地の魅力に触れてもらえるブースを設け、展示販売を行った。		
	事業費	（補助金額） 150,000円	（総事業費） 174,241円
	実施日・期間	2020年10月11日（日）	参加対象者 人数 一般120名（来場者100名、スタッフ出演者関係者20名）
工夫したところ 悩んだところ	新型コロナウイルス感染症が流行したため、当初の事業目的であった、多くの人を飯南に呼び込むということが困難になった。事業の実施自体も危ぶまれたが、住民協議会と話し合い、小規模で感染対策をしっかり取ったうえで実施することを決定した。イベント自粛の時期で感染対策の方法に参考例がなく、どこまで準備したら良いのか、感染状況が読めないこともあり、大変悩んだ。		
成果・効果	イベントのほとんどない状態が半年ほど続いた時期もあり、音楽祭の開催が歓迎された。音楽のすばらしさを来場者に味わっていただけ、心を豊かにするひと時を提供できた。また、アンケートから、飯南でのアンケートを今後も望む声や、感染対策について安心いただけたことをキャッチすることができた。		
今後の事業展開	飯南産業文化センターを地域で活用していく話があるため、その方法について地域と検討していく予定です。		
地域との連携	今回共催していただいた住民協議会はもちろん、飯高・飯南の他の住民協議会にも声掛けをしていきたいです。飯南産業文化センターをはじめ、飯南・飯高地区の大人から子どもまで、様々な人たちと、音楽文化や芸術活動に関わる取り組みをしていきたいと思っています。		



感染症対策のため客席の間隔をあけて、定員100名限定（収容人数の25%）で実施しました。



ピアノを頑張る小学生も、演奏家と同じステージでピアノ演奏を披露しました。



トークを交えて、お客さんともコミュニケーション。楽器紹介のコーナーも好評でした。



オペラや日本の歌、歌謡曲など、名曲の数々をプログラミングし、お届けしました。



ロビーでブース出店のマルトモ製茶さんと楽器のお店ラモシオンさんに、ステージでPRトークをしていただきました。



最後は「ふるさと」を演奏。感染症対策のため、「皆さん一緒に」は自粛しましたが、お客さんから「一緒に歌いたかった！」の声がありました。

地域の元気応援事業 年度別採択一覧(H26～)

住民協議会名	26年度		27年度		28年度		29年度		30年度	令和 元年度	令和 2年度
	地域力	広域	地域力	広域	地域力	広域	地域力	広域			
松阪中央住民協議会		☆	○		○	△			▲		
幸まちづくり協議会		☆			○	△			▲		
第二地区まちづくり協議会											
第四地区住民協議会			○			◆	○	◆			
神戸まちづくり協議会	○						○		○		○
徳和住民協議会			○						○		○
東地区住民協議会											
朝見まちづくり協議会		◇	○	◇	○	◇	○	◇	○		
掬水まちづくり協議会	○	◇	○	◇		◇	○	◇			
漕代まちづくり協議会		◇		◇		◇		◇	○	○	
伊勢寺地区住民協議会									○		
阿坂まちづくり協議会	○	◎	○		○		○		○	○	○
宇気郷住民協議会	○										
西黒部まちづくり協議会		◇		◇		◇◆		◇◆			○
東黒部まちづくり協議会		◇		◇		◇◆		◇◆			
機殿まちづくり協議会		◇		◇	○	◇	○	◇	○	○	○
大石地区まちづくり協議会					○		○			○	○
茅広江まちづくり協議会	○		○								
射和地区まちづくり協議会							○			○	
鈴の森住民協議会			○						○		
港まちづくり協議会						◆		◆			
松ヶ崎まちづくり協議会	○		○		○	◆	○	◆	○	○	○
花岡住民協議会			○								
松尾まちづくり協議会	○		○		○		○		○	○	○
大河内地区まちづくり協議会	○				○				○		
嬉野宇気郷住民協議会											
中郷まちづくり協議会											
豊地まちづくり協議会		◎			○		○		○	○	○
嬉野中川まちづくり協議会											
豊田まちづくり協議会							○			○	○
中原まちづくり協議会	○		○		○		○		○		○
米ノ庄住民協議会	○										
天白まちづくり協議会						◆		◆			
鶴まちづくり協議会						◆		◆			
おのえ住民協議会											
有間野住民協議会							○				
粥見住民協議会							○				
仁柿住民協議会			○								
柿野住民協議会					○						
宮前まちづくり協議会		■	○		○		○		○	○	○
川俣地区住民協議会		■			○						
森を考える会		■									
波瀬むらづくり協議会		■			○		○		○	○	○
	10	4	14	1	15	3	17	2	16	11	13

市民活動団体名	平成 26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和 元年度	令和2年度	
							活性	連携
松阪サブカル交遊会	○							
笑びすや農園	○							
まさかのまつさか	○							
喜心	○							
ミズ・ネットワーク松阪	○							
松阪ダンボールコンポストの会	○							
五和会		○						
まつさか子育てママチーム		○			○	○		
『いっしょにあそぼ！福島っ子』の会		○						
飯Ne！！		○						
東自治会館（宅老所）		○						
薬王寺ゆったり庵		○						
瑞巖寺庭園保存会			○					
松阪ハーモニックジュニアバンド			○	○		○		
神ノ木台健康イキイキ仲良しクラブ			○					
このゆびとまれ				○				
阪内町まちづくり委員会				○				
音楽のアトリエMUSICANO（ムジカーノ）					○			○
特定非営利活動法人 i sierra						○		
Tulay（トゥライ）							○	
松阪ギター音楽協会							○	
市場庄おやじ会							○	
まつさかプレーパークをつくる会							○	
生ごみリサイクル亀さんの家							○	
MCA松阪市カヌー協会								○
	6	6	3	3	2	3	5	2

独創 …… 独創事業部門。独創的なアイデアや地域らしさを生かして地域が協力し合って活動する事業（26年度から地域力アップ部門に変更）

広域 …… 広域連携部門。複数の住民協議会が共同で取り組み地域間の広域連携を推進し連携の輪を広げる事業（30年度から地域力アップ部門と統合）

地域力 … 地域力アップ部門。地域の課題解決に向け地域の個性を生かし地域全体が一体となって取り組む事業（30年度から広域連携部門と統合し、複数の住民協議会で取り組む事業も対象）

活性 …… 地域活性コース（市民活動サポート部門）。NPO等の市民活動団体が行う地域活性化のための事業のコース。

連携 …… 地域連携コース（市民活動サポート部門）。NPO等の市民活動団体が、住民協議会と連携したり住民協議会を支援して行う地域活性化のための事業のコース。

○以外の記号 … 複数の住民協議会が連携して取り組んだ事業

☆ゾーン30計画実行委員会

★海と山の交流

◎白米城交流サミット

□嬉野ハッピーフェア

△松阪三珍花花碑建立

▲歩いて楽しい道づくり

■和歌山街道観光開発

◇東部管内防災ネットワーク

◆松阪市臨海地域防災ネットワーク

<お問い合わせ先>

松阪市 企画振興部 地域づくり連携課

〒515-8515 三重県松阪市殿町 1340 番地 1

TEL 0598-53-4324 FAX 0598-26-4035

E-mail commu.div@city.matsusaka.mie.jp